

2016年度北海道YMCA事業報告

理事長	土屋 博
常議員会会長	高杉 純二
総主事	秋葉 聡志

多くの会員並びに関係者の方々にご尽力ご支援をいただき、2016年度事業を終えることができましたことを心より感謝申し上げます。

公益団体としてその理念を表現している「北海道YMCAミッションステートメント」、「YMCAの願い」、「キャラクター・ディベロップメント」は、YMCAが果たすべき使命と実現すべき願い、そして実践すべき価値を表わしており、すべての事業・プログラムはこれらを反映していなければなりません。2016年度は、設置法人の公益財団法人移行3年目となり、過年度に修正・変更作業した会員組織としての会則を施行し、会務を円滑に推進することに努めました。また、各部・ブランチともに事業構造の変革へ向けた取り組みを継続し、特に札幌ブランチでは、会館の老朽化に伴い、将来計画の検討の必要性が高まる中で、「将来構想委員会」を設置し、具体的な議論を開始しました。さらに、全国YMCAと協働して進めているYMCAブランドの見直しを継続し、特に広報ツールの一部見直しを図りました。変更した会則の施行に伴い、会員運動の担い手となる維持会員、支援者となる賛助後援会の増強を図りました。なお、国際協力募金に加え、新たな年間寄附金活動として大口寄付を活用しユース活動基金を創設しました。創立120周年を迎える2017年度に向け、記念事業の検討を進めるとともに、2017年度から取り組む中期3ヶ年計画の策定作業を進めました。

(公益目的事業)

1. ウェルネス事業

(1) スポーツ活動

幼少年スポーツ活動は、札幌の水泳クラスでは、幼児や初心・初級者の増強を目指し、幼児クラスの対象年齢を変更したことにより大幅な増員となり、年度末まで維持することができました。フロア体育は、子どもの成長と課題の「見える化」に取り組み、一部クラスでパーソナルレコードを導入し、課題解決型のプログラムへと転換を進めました。発達支援水泳クラスは、YMCA児童デイサービス「さんかく」との連携を継続して強める努力をし、入会待機者の解消に努めましたが、全員を受け入れることはできませんでした。サッカークラスは、実施会場・クラスの統廃合を行いました。会員募集は目標に達しませんでした。

北見、帯広ブランチでは、アフタースクール、デイケアスクールの課外活動として多様なクラスを展開できましたが、北見、帯広とも公共施設を利用する指導環境の違いから札幌含め各ブランチ間でのプログラムの質的な差が生じており、改善に向け全道の担当者研修の実施やプログラム視察を含めた担当者会をブランチで実施するなど、新たな動きに着手しました。ウェルネス指導者資格の取得に向けた研修の実施は引き続いての課題となりました。

青年、成人活動は、札幌ブランチを中心に、中高年を対象にした会員区分の増強を図り、体験を重視した地域密着型の広報により会員数を維持しました。中高年対象総合的プログラムを目指すための文化教養系プログラムの導入と施設(ロッカールーム)の整備を計画していましたが、次年度へ継続して検討することとなりました。

(2) 地域支援活動

各ブランチとも地域の幼稚園、保育園の要請により、継続して専門指導者による基礎体

育、レクリエーション等の指導を行いました。また、全国のYMCAと協働して、水の安全キャンペーンを展開し、水上安全ハンドブックを地域の幼稚園・小学校に配布、着衣水泳体験会を通して水難事故防止を図るとともに、人命救助法について学ぶ機会を提供しました。特に札幌では、昨年度に引き続き、近隣の山鼻小学校と連携し、授業として学校プールで3日間に渡り全児童に水の安全教室を実施し、大きくメディアにも取り上げられました。

また、帯広ブランチでは、11月にリトミックの体験会と保育者向け講習会を実施し、地域の方が多く参加しました。2月には全国YMCAとの共同プログラム、いじめ撲滅キャンペーン「ピンクシャツデー」を各ブランチで実施し、合わせて札幌、帯広では子どもをいじめから守るための大人のワークショップを開催しました。

(3) 野外教育活動

日常野外活動は、それぞれのブランチの地域性を生かした多様なプログラムを展開することができました。

キャンプは、札幌圏では送迎バス費用の高騰に伴う収支バランスの崩れを整えるため一部参加費を値上げするとともに、送迎体制を見直しましたが、道民の森キャンプ、チミケップキャンプの参加者が減少しました。9月の台風によりチミケップキャンプ場も倒木被害を受け、北見ブランチ会員・リーダー・リーダーOBによるワークキャンプを数回実施し、危険木の伐採を行いました。撤収処理については今後の作業となります。

スキーは、各ブランチとも指導員の他にリーダーが配置されるというYMCAの独自性とSAJ公認校としてのメリットを融合させた質の高いプログラムの提供に努めました。春スキーでは、新たに帯広、北見ブランチが共同してサホロススキー場で合同プログラムを実施しました。また、札幌ブランチ企画の宿泊スキーに広島YMCAのグループを受け入れ、さらに、ニセコで実施された福岡YMCAのスキーキャンプに指導員を派遣するなど、全国のYMCAと協働しました。

(4) リーダーシップ育成活動

地域におけるユースボランティアリーダーの育成は、YMCA誕生の歴史が示す最も重要な使命として位置づけられている事業といえます。YMCAの様々な活動に参画することにより、青年がリーダーシップを身に着け、将来、社会におけるリーダーとして活躍し、社会貢献を果たしていくための実践トレーニングの場として捉えています。

札幌圏では、活動横断的な一元的管理・運営体制を継続し、定期的な募集説明会の実施によりユースボランティア登録者が増加しました。夏期には、全道のリーダーを対象にYMCAウエルネスキャンプ指導者資格の取得を目指した研修を実施しました。また、全国規模の東日本YMCAユースリーダーズフォーラム、YMCA全国ユースリーダー研修会にリーダーを派遣しました。年度末には、寄付金を活用し、ユースリーダーを育成するための活動基金を設置することができました。

中高年対象のシニアボランティアは、発達支援水泳クラスリーダー、児童デイサービス水泳リーダー、スキースクールでのリフト補助ボランティアなど、活動を広く知らせることに努めました。

また、スタッフの育成、担当者間のネットワークづくりを目指し、各事業担当者会・研修会、ブランディング関連会議、東日本地区YMCAスタッフ研修会など、全国関連会議・研修に積極的にスタッフを派遣しました。

事業別課題の解決、新規プログラム開発を目指し、ブランチ横断的な事業別担当者会の組織化を図り、ウエルネス部門の担当者会が機能し始めました。

2. 国際理解・国際協力事業

(1) 国際交流活動

国際的なネットワークが国際協力団体としてのYMCAの大きな特徴であり、国際事業は必ずカウンターパートナーとして現地のYMCAと協働する形を取っており、相互のニ

ーズに対応していることを原則としています。

ベトナムボランティアワークの旅は21年目を迎え、ベトナムYMCAとの教室建設プロジェクトを継続して実施しました。また、チミケップキャンプには、アメリカ、台湾からキャンプ指導者12名を受け入れました。秋には、日台マネジメントセミナーが台湾で開催され、北海道から総主事が参加し、昨年度から始まった日本語集中クラスについてアピールをしました。冬には、シンガポールYMCAの10回目のファミリースキーツアーをルスツリゾートで受け入れましたが、コスト増に伴う参加費の上昇に伴って年々参加者が減少し、次年度に向けては開催場所を変更することとしました。年度末には、東日本地区YMCA総主事会議が韓国ソウルで開かれ、総主事が出席しました。ソウルYMCA役員、韓国YMCA同盟役員との懇談、日本語集中クラスの募集窓口を担っているY留学院を訪問し、顔の見える関係づくりに努めました。

関係団体では、台北で開催されたワイズメンズクラブ国際協会国際大会に、札幌ワイズメンズクラブのメンバーをはじめ、北海道部のワイズメンが参加し交流を深めました。

(2) 語学教育活動

国際協力・国際交流活動を行うにあたり、相互コミュニケーションの手段となる英語教育を幼児の段階から行いました。様々な国際活動や国際会議に主体的に参加し意見を述べ、協議しながら共に生きることを実践することのできる青少年の育成が使命であることを覚えつつ、保育プログラム・アフタースクール登録者の実習を中心に、YMCAの特徴を生かしたYMCAらしい英語教育を目指し、国際協力募金や国際関連事業との連携を図りました。

3. 青少年支援事業

(1) 幼児保育活動

全日制の事業として、各 brunch の保育事業の募集活動は、目標に対しては安定的に遂行することができました。0～2歳までの就園前のプレスクールの設定による5歳までの一貫した保育の流れと多様な実習、送迎システムが付加価値として受け止められています。

保育環境の質的向上を目指し、札幌幼稚舎ではトイレの改修工事を行い、幼児が使いやすいトイレに整備しました。北見保育園 Joy では、会館電灯のLED化工事、屋外プールの更新を実施しました。北見では、前年に比較して園児が減少傾向を示しており、今後の動向に注意が必要です。帯広幼保園は、毎年音更町の補助を頂いており感謝です。一方で、社会的な保育士不足の影響が地方都市にも表れ、特に帯広 brunch では昨年度に続いて保育士の確保に一年を通して苦しみました。今後も、益々厳しさを増していくことが予測されますので、次年度に向けて保育士の採用について対策をとりました。

(2) アフタースクール

札幌、北見 brunch では安定的に運営することができましたが、帯広 brunch は対象校の範囲が広く、実習会場との地理的關係により送迎の効率化に依然課題を抱えています。両親が共に働いている家庭の要請に応えるプログラムは、これからもニーズが高まると考えられますが、行政によるサービスや同種の施設が増加しており、政策的にも保育園の待機児童解消対策の延長線上にあるなど、外部環境は急速に変化しています。現状では、新子育て支援制度の枠組みに収まるよりも、多様な実習や学校と自宅を結ぶ送迎システムなど、YMCAの独自性や付加価値をさらに高めることが求められます。

(3) 発達支援クラス活動

近年、発達に課題のある青少年が通常学級、通常プログラムに広く参加することが社会通念化してきており、YMCAにおいても研修を通じてスタッフの対応力の向上を図ってきました。また、独自のプログラムの他、札幌では児童デイサービスを実施し、満所状態となっていますが、さらなるニーズに応えるとともに継続して安定した運営ができるよう、土曜開所を実施しました。今後、brunch において、保育園等子育て支援プログラムと合

わせて展開されるべき事業として開設を検討していきます。

(4) 幼児・少年等文化教養活動

単独プログラムとして参加している会員の他、アフタースクールの実習や幼少体育活動、語学教育活動参加会員の複数受講プログラムとして付加価値を高める活動となっています。体育、語学に加えて幅広い学習機会の提供を図るとともに、既存プログラムの内容の充実を図りました。また、成人フィットネスとの連携を図り、成人会員の増強を意図した成人対象プログラムの企画を検討しましたが、次年度への継続課題となりました。

(5) 専門学校

青年の全日制活動として重要な事業である専門学校は、英語学科単独となって、再度コース名を「カナダスタディコース」と「英語コミュニケーションコース」に名称変更しました。新卒者だけでなく、既卒者の学び直しの学校としての機能も求められています。現場実習の機会を増やし、実務訓練を重視したカリキュラムを実施するとともに、新たなインターンシップ企業との連携を深め協力関係を築きながら、英語を使う実習を積極的に実施しました。また、海外研修だけではなく、国内のYMCA関連の国際研修も選択に加え学生がより多く様々な経験ができるように配慮しました。

社会人準備コースは、発達に困難を抱える青年を取り巻く社会的な制度・環境が整いつつある中で、3名の在校生が卒業した2017年3月をもってコースとしてその役割を終了しました。

さらに、全国のYMCA日本語学校と連携し、多文化共生プログラムの一つとして2015年度冬から開始した日本語集中クラスは、2年目となって夏コース、冬コースと回を追って台湾、韓国からの参加者が大幅に増加しました。今後の更なる発展が期待されます。

(収益事業)

1. その他の事業

(1) 介護保険サービス事業及び障害者福祉サービス事業

地域の要請に応えるため、ケアマネージャーによる介護相談事業、ヘルパー派遣事業を行いました。ヘルパー人数の確保は、依然厳しい状況にあり、現有体制の中での定期的トレーニング、外部派遣トレーニングによりサービスの質的維持を図りました。また、障害者福祉サービス利用者が心身の特性や機能に応じ、自立した生活を営むことができるよう生活全般にわたる支援を行うため、ヘルパーを派遣しました。

(2) 貸館、物品販売、自販機手数料事業

地域の要請により可能な限り施設、駐車場を提供する他、参加会員がプログラムに参加するために必要な教材を常に提供、販売できるよう準備しました。特に札幌ブランチでは、未登録駐車のチェックをこまめに行い、駐車料金の増収を図ることができました。また、会員サービスの一環として水分補給のため、各種自販機を継続設置しました。

(管理部門)

(1) 法人業務

過年度来、変更作業を行った会則を施行し、諸規程に則って会務を円滑に推進しました。また、将来構想委員会を設置し、特に札幌ブランチの会館構想を含めた将来像について議論を開始しました。さらに、日本YMCA同盟と歩調を合わせ、YMCAブランドの見直しを継続するとともに、パンフレット等、一部広報ツールの見直しを図りました。新会則に則り賛助後援会の規約を修正整備するとともに、会員運動の担い手となる維持会員、賛助後援会の増強を図りました。創立120周年を迎える2017年度に向け、記念事業の検討と合わせ、事業部と協働して2017年度から取り組む中期3ヶ年計画の策定作

業を進めました。

(2) 北海道大学YMC A、ワイズメンズクラブとの協働

北海道大学YMC Aと連携し、創立記念日集会、会員セミナー、YM・YWCA合同祈祷週特別集会など、各種集会、プログラムへの参画を促すとともに協働で実施しました。将来構想委員会の委員としても参画いただき、学生YMC Aを含めた将来構想となるよう意図しています。また、ワイズメンズクラブ北海道部の各クラブと協働してYMC Aプログラムの資金的・人的支援を実施するとともに、YMC A運動の担い手として各種委員を担っていただきました。

(3) 東日本大震災支援活動（災害支援活動）

東日本大震災や原発被災者支援のための募金活動を実施するとともに、被災避難者を対象としたYMC Aプログラムへの参加費助成を継続して実施しました。また、4月に発生した熊本地震の被災者支援・被災YMC A支援募金を実施しました。さらに夏の台風被害を受けた道内被災地に対し募金活動を行うとともに南富良野町に災害ボランティアを派遣しました。